

# 奈良大学の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

奈良大学では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、次の通り教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を定めている。

## 2019年度以降入学生用カリキュラム

### 文学部

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、各学科に「基幹科目」、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」、「情報科目」、「キャリア科目」の5科目群を設ける。

各科目は、学修段階に応じ各学年に配当し、講義形式、演習形式、実習形式等、各科目の特性に応じた形式により、学生の主体的かつ能動的な学修となるよう留意して授業を実施する。

学修成果の評価は、各科目の特性に応じて公正かつ厳格に実施する。

### 国文学科

科目群		概要
基幹科目	必修科目	専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
		学問と社会 学問と社会
		基礎演習 大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
		演習 学年ごとに学び合う少人数クラスが設定されており、学びの過程を経るごとに古典文学、近現代文学、日本語の各領域に対する知見を深めることができる。課題に関する議論を通じて、客観的で多角的な問題意識とともに、他者に対する共感的な感覚や態度を養う。 言語文学、国文学講読、国文学演習
		卒業論文 古典文学、近現代文学、日本語を基軸とし、そこにこれまでの学びを通じて得た歴史、芸能、出版、メディア表現など、周辺の文化領域に関する知識を援用することで、学際的かつ独創的な視点を持った論文を作成することを目指す。 卒業論文
	その他、専門領域の学びに必須の科目 上代から近現代までの文学史を系統的に把握するとともに、歴史・芸能・出版・メディアなど、国文学に隣接する文化事象との影響関係についても学ぶことで、文学に関する広範な知識とそれを運用する技能を養う。 国文学の世界	
	選択科目	A群 上代から近現代に至る日本の文学、古典・近現代の国語学、さらにはその隣接分野である中国文学に関する基礎的な知識を習得する。また各分野を相互に関連づけることで、国文学に関する体系的理解を図る。 国文学史、国語学概論、古典文学概論、近代文学概論、現代文化論、中国文学概論、日本語の歴史
		B群 各時代の文学における韻文・散文の特質、方言をはじめとする日本語の多様な局面、さらには文学を支える書物やメディアなど、国文学の各領域に関する個別的専門的な知識を習得し、各自の問題意識を深化させることを目指す。 神話伝承論、平安文学論、中世文学論、近世文学論、書物論、メディア文化論、比較交流論、和歌歌謡論、近代小説論、近代詩歌論、現代文学論、古典日本語論、現代日本語論、国文学特殊講義、国語学特殊講義
		C群 実地踏査や資料調査、演劇鑑賞や身体表現、編集実技といった実践的な学びを通じて、日本文化に対する幅広い感性や実的な文化の担い手となる技量を養うとともに、それらを社会に還元する手法を身につける。 日本語教育論、言語情報処理論、中国文学講読、書道、実地見学踏査、伝統芸能鑑賞、身体表現実習、資料調査実習、文芸創作実習、書物出版学実習、編集実習
		D群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、経営学、販売管理論、海外研修、プロジェクト
外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語	
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法、Webプログラミング	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

史学科

科目群		概要
基幹科目	必修科目	専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につけるため。
		学問と社会 学問と社会
		基礎演習 大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
		演習 口頭報告や文章作成を通して、自己の研究テーマに関する先行研究の成果と課題および史料分析を他者にわかりやすく伝える力を身につける。また、討論を通して、相手と冷静かつ建設的に議論、批判しあえる力を身につける。 史学演習
		卒業論文 自己の研究テーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独創的な研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実行して、課題解決に向けての実証作業を確実にこなす。独自の歴史像を打ち出す。 卒業論文
	その他、専門領域の学びに必須の科目 歴史学という学問の基本的な作法を身につけるとともに、日本史と世界史の各時代、各地域に関する基礎的な史実を修得する。また、さまざまな種類の史料に幅広く接することで、史料の基礎的な扱い方を修得するとともに、自分の力で史料を調査し、多角的に分析、評価できる力を身につける。 史学研究法、日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、史料講読	
	選択科目	A群 日本史と世界史のさまざまな時代、地域、分野に関する基礎的な先行研究、および最新の研究動向と水準を幅広く修得し、歴史には多様な見方と評価方法があることを理解する。 国際交流史基礎講義、日本史基礎講義、東洋史基礎講義、西洋史基礎講義
		B群 A群の基礎講義以上に、日本史と世界史のさまざまな時代、地域、分野に関する最新の研究動向と水準を修得し、歴史を多角的にとらえる力を身につけ、自らの拠って立つべき歴史観を構築する。 国際交流史特殊講義、日本史特殊講義、東洋史特殊講義、西洋史特殊講義
		C群 日本史と世界史のさまざまな時代、地域に関する史料の実物やレプリカに触れ、それらの扱い方や整理・保存方法を修得する。また、実物やレプリカの史料を扱えばこそ可能となる研究手法を理解する。 史料研究
		D群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト
外国語科目 グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語		
健康・スポーツ科目 身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学		
情報科目 情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法		
キャリア科目 卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論		

地理学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	必修科目	学問と社会 学問と社会の関わりを意識する。 学問と社会
		基礎演習 大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
		演習 現代社会における地理学の役割について考えるとともに、地理学研究を行うための基礎的技術の習得と実践を行う。 地理学講義・調査法、地理学分析・表現法、地理学地域調査演習、地理学演習
		卒業論文 ゼミ教員から指導をうけ、的確な地図や図表を用いて地理学に関する卒業論文を作成する。卒業論文は、問題の所在の把握、段落や文章の構成、参考文献を理解した上でルールに沿ってまとめ、論理的な文章とする。 卒業論文
		その他、専門領域の学びに必須の科目 地理学の基礎的技法として古地図を含む空間情報の扱い方を理解するとともに、地理情報システム(GIS)など、地理学と関わりのある最新技術の活用方法を知る。また、調査・巡検を通して地域に関する情報を収集する方法について理解する。 地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎
	選択科目	A群 系統地理学的に地理学全体を概観できるようにする。日本および世界における地誌地域の文化・特性を理解できるようにする。人文社会科学と自然科学の融合である地理学を環境を通して学ぶことができるようにする。 日本地誌概論、世界地誌概論、測量学概論、地理情報科学概論、計量地理学概論、環境地理学概論
		B群 幅広いニーズに合わせた多数の講義が開講されている。地域創生コース、歴史・文化コース、地域環境・防災コース、データサイエンスコースの4分野について、意欲的に学ぶことにより、多面的な知識とそれらを活用する能力を養成する。 都市地理学、経済地理学、村落地理学、歴史地理学、観光・交通地理学、人口地理学、地形学、気候学、水文学、災害地理学、地理学特殊講義
		C群 地理学の基礎的技法として、地図・空中写真・地理情報データの扱いを学ぶ。また、リモートセンシングやデータベースなど、より専門的な技法を習得し、地域に関する情報を自ら収集し、共有できるようにする。 測量技法、応用地図技法、フィールドワーク技法、リモートセンシング技法、GISデータ分析技法、GISマネジメント技法、GISプログラミング技法、海外巡検
		D群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、プロジェクト
	外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データ分析法、Webプログラミング	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

文化財学科

科目群		概要	
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。	
基幹科目	必修科目	<p>学問と社会</p> <p>学問と社会の関わりを意識する。</p> <p>学問と社会</p>	
		<p>基礎演習</p> <p>大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。</p> <p>基礎演習</p>	
		<p>演習</p> <p>考古学、美術史、史科学、および保存科学の専門的研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝え、他者と議論する力を身につける。</p> <p>文化財演習、考古学演習、美術史演習、史科学演習、保存科学演習</p>	
		<p>卒業論文</p> <p>自らのテーマに関する研究史や先行研究を十分に踏まえた上で、自らの課題解決に向けて筋道を立て、計画性のある十分な調査研究を行い、その成果を整理して、担当教員との綿密な相談も経ながら卒業論文を作成する。</p> <p>卒業論文</p>	
		<p>その他、専門領域の学びに必須の科目</p> <p>考古学、美術史、史科学、保存科学の専門的研究を進めるにあたり、講読や実習によって基礎的な調査方法や研究方法を修得する。講読では基本的な文献の読み方や解釈方法を学び、実習では技術や観察方法を体得する。</p> <p>文化財学研究法、考古学講読、美術史講読、史科学講読、保存科学講読、考古学実習、美術史実習、保存科学実習</p>	
	選択科目	A群	<p>考古学、美術史、史科学、保存科学など主な専門分野を概観し、従来の研究成果にもとづき基礎的かつ必須の事項を学ぶ。文化財の種類・研究分野および文化財保護についての必須事項を確認し、基礎的な調査研究法を修得する。</p> <p>考古学概論、美術史概論、史科学概論、保存科学概論</p>
		B群	<p>考古学、美術史、史科学、保存科学の特殊講義で専門的研究を学び、各分野の研究手法やその成果について深く学習する。自ら研究する卒業論文の調査方法や研究方法の参考にし、研究を深める。</p> <p>考古学特殊講義、美術史特殊講義、史科学特殊講義、保存科学特殊講義</p>
		C群	<p>考古学、美術史、史科学、保存科学および世界遺産学等の各分野とその周辺分野におけるさまざまな研究視野にもとづく専門的知識を学び、自らの研究の方向と課題発見・解決の力を身につけるとともに研究の深化をめざす。</p> <p>文化財情報学、文化財修景学、文化財分析学、文化財環境学、文化財修復学、考古学研究法、先史考古学、歴史考古学、仏教考古学、世界考古学、東洋美術史、日本彫刻史、日本絵画史、工芸史、文献史科学、宗教文化史、世界遺産学、建築史</p>
		D群	<p>学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。</p> <p>哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、情報学、人間学、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト</p>
	外国語科目	<p>グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。</p> <p>また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。</p> <p>オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語</p>	
健康・スポーツ科目	<p>身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。</p> <p>スポーツ実技、健康科学</p>		
情報科目	<p>情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。</p> <p>情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法</p>		
キャリア科目	<p>卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。</p> <p>キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論</p>		

社会学部

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、各学科に「基幹科目」、「外国語科目」、「健康スポーツ科目」、「情報科目」、「キャリア科目」の5科目群を設ける。

各科目は、学修段階に応じ各学年に配当し、講義形式、演習形式、実験実習形式等、各科目の特性に応じた形式により、学生の主体的かつ能動的な学修となるよう留意して授業を実施する。

学修成果の評価は、各科目の特性に応じて公正かつ厳格に実施する。

心理学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	必修科目	<p>学問と社会</p> <p>学問と社会の関わりを意識する。</p> <p>学問と社会</p>
		<p>基礎演習</p> <p>大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。</p> <p>基礎演習</p>
		<p>演習</p> <p>4学期にわたる段階的な学びにより、心理学における知識、技法、思考法、表現法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。また、対人関係や社会における問題を心理学的に捉えて研究課題を構築する能力を育成する。</p> <p>臨床心理学演習、社会心理学演習</p>
		<p>卒業論文</p> <p>大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえた上で、自らの関心にもとづいて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。</p> <p>卒業論文</p>
		<p>その他、専門領域の学びに必須の科目</p> <p>心理学、臨床心理学、社会心理学の概論に関する講義科目、及び心理学研究で用いる基礎的な実習科目を配置する。講義科目においては、より専門性の高い科目を履修する基幹となる概念や考え方の習得を目指す。実習科目においては、心の働きを検討する方法論の修得やデータ解析法、研究成果報告の技法の習得を目指す。</p> <p>心理学概論、社会心理学概論、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学統計法I、心理学実験、臨床心理学基礎実習、社会心理学基礎実習</p>
	選択科目	<p>A群</p> <p>臨床心理学と社会心理学を中心に、広く心理学の諸領域にわたる講義科目を配置する。それらを履修することで、心の問題の発見とケア、組織や社会における特有の人間行動など、多様な問題を有機的につなげる力を身につける。</p> <p>知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、発達心理学、教育・学校心理学、社会・集団・家族心理学、応用社会心理学、感情・人格心理学</p>
		<p>B群</p> <p>臨床心理学と社会心理学を中心に、特定の領域について深く掘り下げる講義科目、及び領域横断的な講義科目を配置する。概論的な講義科目の履修を前提に、各分野の専門的な知識を身につけるとともに、卒業研究に向けて多角的な研究視点の獲得を目指す。</p> <p>青年心理学、進化心理学、応用心理学、集団力学、対人社会心理学、産業・組織心理学、文化心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学、心理学的支援法、司法・犯罪心理学、健康・医療心理学、精神疾患とその治療、人体の構造と機能及び疾病、臨床心理学特殊講義、社会心理学特殊講義</p>
		<p>C群</p> <p>心理学研究で用いる多様な方法論の実習科目を配置する。対象者との関係構築の技法や研究課題の設定、検証の手順の策定、成果の報告方法について体系的・実践的に学修し、問題を自らの課題として捉え、考察する能力を育成する。</p> <p>心理学統計法II、関係行政論、公認心理師の職責、心理実践演習(心理実習)、心理的アセスメント、心理演習(カウンセリング)、社会心理学実験演習</p>
		<p>D群</p> <p>学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。</p> <p>哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、人と防災、世界の人口問題、数学、化学、物理学、販売管理論、海外研修、プロジェクト</p>
		<p>外国語科目</p> <p>グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。</p> <p>また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。</p> <p>オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語</p>
<p>健康・スポーツ科目</p> <p>身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目指す。</p> <p>スポーツ実技、健康科学</p>		
<p>情報科目</p> <p>情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。</p> <p>情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法、Webプログラミング</p>		
<p>キャリア科目</p> <p>卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。</p> <p>キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論</p>		

総合社会学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	必修科目	学問と社会 学問と社会の関わりを意識する。 学問と社会
		基礎演習 大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
		演習 4学期にわたる段階的な学びにより、社会科学の思考法・表現方法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。 演習
		卒業論文 大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえた上で、自らの関心にもとづいて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。 卒業論文
		その他、専門領域の学びに必須の科目 現代社会を総合的に理解するために必要とされる社会科学諸領域の基礎的な知識を修得し、上級学年で求められる調査研究を行う上での礎を築く。 社会調査概論、社会学基礎、社会調査法、経済学、情報学、社会体験実習
	選択科目	A群 必修科目をふまえ、社会学を中心とした社会科学諸領域の知識を深く得ることにより、現代社会の諸問題を発見し、多様な価値観や社会的現実の存在を理解する。 文化人類学、政治学、経営学、家政学、地域社会学、家族社会学、国際政治学、現代社会と哲学、現代社会と倫理、社会統計学、デジタルアーカイブ概論、文化情報論、国際社会学、産業社会学、情報社会学、環境社会学
		B群 卒業論文作成に向け、調査研究を自ら組織するための専門的・応用的知識の習得および実証的なデータの収集と分析能力を身につける。 ジェンダーとライフコース、東アジア・東南アジア社会論、世界の民族誌、消費と経済、経営管理論、産業と技術の発展、知的財産管理論、身体と文化の継承、企業行動分析、消費者行動分析、企業倫理と消費者、量的分析法、質的分析法、プログラミング言語、社会調査実習、総合社会学特殊講義
		C群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、教育学、現代史、民俗学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、生物進化学、生態学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、自然の保護、環境科学、言語学、メディア学、人と防災、世界の人口問題、数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、プロジェクト
	外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。  オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語
	健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

文学部文化財歴史学科（通信教育課程）

教育内容							学修方法	学修成果評価方法	
文学部文化財歴史学科（通信教育課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために教養教育、専門教育、自由選択科目について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。									
【教養科目】	【各学科専門科目】					【自由選択科目】			
	＜概論＞	＜専門に関する技法＞	＜講義＞	＜専門の実践的科目＞	＜演習＞		＜卒業論文＞		
<p><b>＜主題科目＞</b> これからの時代を主体的に生きていくのに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、まとまりを持って自分なりの『主題』を見つけて学んでもらうために、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を設定し、対応するコア科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。</p> <p>人間論、国際関係論、法学概論、環境論</p> <p><b>＜外国語科目＞</b> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、英語と中国語から自由に選択することができる。</p> <p>英語、中国語</p> <p><b>＜健康・スポーツ科目＞</b> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。</p> <p>スポーツ実技、健康論</p>	<p>歴史学、文化財学における各分野（史料学・考古学・美術史・東洋史・西洋史）の学問領域を概観し、従来の研究成果にもとづいた基礎的かつ必須の事項を学び、研究動向の基礎を身につける。</p> <p>史料学概論、考古学概論、美術史概論、東洋史概論、西洋史概論</p> <p>史学講読、文化財学講読</p>	<p>先行研究として重要な論文・関係史料の講読を通して、専門用語（術語）を理解し、さまざまな史料に関する基礎的知識・扱い方・分析方法を修得する。さらに、学術論文の構造や要点を理解する力、史料を調査・分析できる力を身につける。</p> <p>史学講読、文化財学講読</p>	<p>史学、文化財学、国文学、地理学の各分野における様々な研究視野にもとづく専門的知識を学び、最新の研究動向と研究手法を修得する。自らの研究の方向と課題を発見し、解決の力を身につけることで、研究の深化をめざす。</p> <p>日本史特殊講義、考古学特殊講義、美術史特殊講義、西洋史特殊講義、東洋史特殊講義、言語伝承論、江戸文学論、歴史文学論、書誌学、平安文学論、観光論、シルクロード学、民俗学、仏教考古学、建築史</p>	<p>奈良の立地を生かした実地踏査で文化領域を総合的に捉える能力を養う。また、さまざまな史料の実物やレプリカに触れ、それを通して、実物史料の扱い方や、実物やレプリカだからこそ見える歴史の世界の分析手法を修得する。</p> <p>奈良文化論、神話伝承論、歴史地理学、古文書学、文化財修復学</p>	<p>自らの卒業論文のテーマを見つける。また、研究史を踏まえ、課題解決に向けて、口頭や文章による報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝える能力を養う。さらに討論を通して、他者と建設的に議論を行う力を身につける。</p> <p>史学演習、文化財学演習</p>	<p>自らのテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、地道かつ広範な調査にもとづいて、課題解決に向けて筋道を立てる。さらに、適切な計画性のもと、主体的に研究成果をまとめる。</p> <p>卒業論文</p>	<p>教養科目、専門科目を補完し、幅広い学問分野が学修できるよう編成した科目を開講している。</p> <p>現代文学論、自然地理学、地理情報システム、人文地理学、気候学、心理学基礎、社会学基礎、経営学基礎、臨床心理学、情報処理、文化人類学</p>	<p>通信教育部では、テキスト科目（印刷教材等による授業）、およびスクーリング科目（面接授業）により学修を行う。</p> <p>テキスト科目は、担当教員指定のテキスト、担当教員作成の学習指導書（サブテキスト）を基に、学生が自宅等で主体的かつ能動的に学修を行い、学修成果をレポート（報告課題）として提出し、担当教員が添削指導を行う。レポート合格者には科目修得試験受験資格を与え、科目修得試験の合格によって当該科目の単位修得となる。</p> <p>スクーリング科目では、学生は担当教員と対面による集中講義授業の受講により、各学問分野の学修を行う。テキスト科目では学修が困難である演習科目やすぐれた歴史的環境にふれる現地踏査により学生が主体的かつ能動的に学修を行う。</p>	<p>学修成果の評価方法は、次のとおりとする。</p> <p>テキスト科目では、提出のあったレポート（報告課題）を担当教員が添削指導を行う。添削指導は、8つの評価項目（設題意図の把握度、テキストの内容理解度、論点の明確さ、論理の一貫性、着眼点、独創性、文章構成力、文字や表現の正確さ）により評価を行い、総合評価として合格又は再提出の判定を行う。</p> <p>レポート合格者には科目修得試験の受験資格を与える。科目修得試験は論述式で行い、当該科目の最終試験として評価を行う。</p> <p>スクーリング科目では、当該科目の到達目標への達成度を、筆記試験、レポート提出、口頭発表、授業への参加態度のいずれか、あるいはそれらを総合して評価を行う。</p> <p>卒業論文では、各自の研究テーマに基づき定めた卒業論文指導教員が、①卒業論文計画書、②卒業論文草稿、③面接指導と段階的に論文指導を行い、提出される卒業論文を当該課程での総合的な学修成果として、学位授与にふさわしいかどうかを評価する。</p>

		教育内容						学修方法	学修成果評価方法			
		文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。										
文学部	通学課程	【教養科目】	【各学科専門科目】					【自由選択科目】	【キャリア教育科目】			
			<概論>	<専門に関する技法>	<講義>	<専門の実践的科目>	<演習>	<卒業論文>				
		<p><b>&lt;基礎科目&gt;</b> 基礎的な「学びの技法（スタディ・スキルズ）」や「発表・討論の技法」を身につけることを目的としている。また、モバイルデバイスを含めた情報機器を用いた技術のみならず、高度情報化社会における諸問題に対応するための科目も含まれている。</p> <p>情報基礎・倫理、表現技法</p>	<p><b>国文学科</b></p> <p>日本語、奈良時代以降の古典文学、明治以降の近現代文学、および近隣地域の諸邦を概観し、おのおの領域における言語、表現の特質と変遷を学ぶ。さらにそれぞれを関連づけることで、国文学に関する体系的な理解を図る。</p> <p>国語学概論、古典文学概論、近代文学概論、中国文学概論</p>	<p>諸本との校合、古典の注釈などの実証的な研究方法、文学理論に立脚したテキスト分析などのほか、隣接する言語学、民俗学や社会学などの知見を導入し、研究対象を客観的に解析し、自らの見解を導き出す能力を養う。</p> <p>言語伝承論、国文学特殊講義、国語学特殊講義、世界遺産学特殊講義、言語情報処理論、比較交流論</p>	<p>国語史、国文学史を軸とし、日本語の諸邦、神話、伝説詩歌、近代詩、小説などの文学領域、映像などの現代文化、漢字文化圏との学際的交流を学び、基本的あるいは個別の課題に関する知識と幅広い見識を身につける。</p> <p>国文学史 古典文法論 現代語文法論 現代文化論 日本語の歴史 古層日本語論 神話伝承論 和歌歌謡論 中古語論 歴史文学論 上方文学論 江戸文学論 近代詩歌論 近代小説論 現代文学論 出版情報論 書誌学 日本語教育論 中国文学講義、書道</p>	<p>奈良の立地を生かした実地踏査をしたり、歌舞伎、文楽などの演劇を近畿圏の劇場で鑑賞したり、能楽や和本の手作りを身体で体験したりなど、これらの実践的学びを専門に関する技法と連動させて、文化領域を総合的に捉える能力を養う。</p> <p>近世演劇鑑賞、古典芸能実習、本と出版・実習、実地見学・踏査</p>	<p>学年ごとに学び合う少人数クラスを設定し、学びの過程を経ることに古典文学、近現代文学、日本語、創作などの領域に対する知見を深め、議論し合い、他者に対する共感的な感覚や態度とともに、多面的な問題意識を養う。</p> <p>言語・文学、国文学講義、演習、世界遺産学演習</p>	<p>古典文学、近現代文学、日本語を研究対象の軸とし、歴史、芸能、出版、メディア表現などを総合的に捉える学びによって得た能力を駆使して、一年間、継続的に設定した研究課題と粘り強く向き合い、問題解決に至る。</p> <p>卒業論文</p>	<p>教養科目と学科専門科目以外にも個性的で主体的な学修ができるように、自学科以外の他学科の科目や社会学部の科目も履修できるようにしている。</p> <p>さらに、「全学自由科目」を設けることで、ジャンルにとられない幅広い分野の学修ができるようにしている。</p> <p>数理の世界、統計学入門、生命科学、生物の多様性、宇宙・物質・エネルギー、自然史、科学技術史、思想史、社会経済史、現代史、現代芸術論、観光論、GIS基礎実習、GIS基礎講座、芸術史、書誌学、比較民族学、民俗学、映像文化論、コンピュータ概論、プログラミング初級、データ処理論、コンピュータグラフィックス、コミュニケーション論、情報と職業、情報ネットワーク論、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、パソコン操作、日本国憲法、ジェンダー論、差別・人権問題論、奈良文化論、シルクロード学、世界遺産学概論、海外研修、入門スペイン語、キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係学</p>	<p>学生が分野にとらわれず学べる「全学自由科目」の一部として、学生が卒業後の将来を考えた、進路実現に向けた準備を行うためのキャリア支援科目を設けている。</p> <p>キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係学</p>	<p>左記の教育内容について、科目の内容や目的に応じて、次の各種の形式の授業、あるいは複数の形式を組み合わせた授業を通じて、学生が左記の教育内容を主体的かつ能動的に学修できるようにする。</p> <p>講義形式・・・各分野の概念や特徴等の知識を、教員の説明や解説と質疑応答により修得する。</p> <p>講義形式・・・外国語や専門分野の文献や資料を正確に、かつ批判的に読むことを通じて論理的展開や語学力、先行研究を把握する。</p> <p>演習形式・・・専門分野における自分および他者の調査研究について建設的に意見を交換していくことを通じて専門分野を総合的かつ体系的に把握する。</p> <p>実技・実習・フィールドワーク形式・・・実際の作業や観察、海外を含む教室外での諸活動を通じて、技法や技能を体得し、体験や経験を身につける。</p>	<p>学修成果は、次のとおり評価する。</p> <p>個々の科目について</p> <p>講義形式・・・科目の概念や特性についての知識の修得や理解の状況を、口頭発表やテスト形式のいずれかの内容、あるいはそれらを総合的に組み合わせて評価する。</p> <p>講義形式・・・外国語や専門分野の文献や資料について正確に内容を理解し、把握しているかを、口頭発表やテスト形式、レポート形式のいずれかの内容、あるいはそれらを総合的に組み合わせて評価する。</p> <p>演習形式・・・自分の研究や調査の成果についての他者への説明と、他者の研究や調査に対する自らの意見発表が、わかりやすく論理的かつ冷静に他者に敬意を払いながら口頭や文章で発表ができていくかを評価する。</p> <p>実技・実習形式・フィールドワーク形式・・・積極的に授業に参加し、作業や調査、活動を行っているかを実際の状況や発表内容を通じて評価する。</p> <p>4年間の学修全般について</p> <p>奈良大学では卒業論文を4年間の学びの集大成として位置づけている。卒業論文の内容により4年間の学びが体系的に身につけているか、学位授与にふさわしいかどうかを総合的に評価する。</p>
		<p><b>&lt;主題科目&gt;</b> これからの時代を主体的に生きていくに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、まとまりを持って自分の『主題』を見つけて学んでもらうために、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を設定し、対応するコア科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。</p> <p>人間論、国際関係論、環境論</p>	<p><b>史学科</b></p> <p>日本史と世界史の各時代・各地域に関する基礎的な史実と研究動向を習得し、歴史の見方などのように変わり、今のような見方が求められているのかを理解するとともに、歴史を長期的、横断的に見渡せられる力を身につける。</p> <p>日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、歴史学通論</p> <p>上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。</p> <p>法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論</p>	<p>史学という学問の基本的な作法を身につけると共に、日本史と世界史の各時代・各地域におけるさまざまな史料に関する基礎的な知識およびその扱い方と分析方法を修得し、自ら史料を調査、分析できる力を身につける。</p> <p>史学研究法、日本史講義、東洋史講義、西洋史講義</p>	<p>日本史と世界史の各時代・各地域における最新の研究動向と手法を修得し、歴史にはさまざまな見方と評価方法があることを理解し、またそれを通じて、実物やレプリカなどから見える歴史の世界の分析手法を修得する。</p> <p>古文書学、日本史史料実習、東洋史史料実習、西洋史史料実習</p>	<p>口頭報告や文章作成を通して、自己のテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独自の研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実施して、課題解決に向けての冷静かつ建設的に議論、批判しあえる力を身につける。</p> <p>日本史演習、東洋史演習、西洋史演習、世界遺産学演習</p>	<p>自己のテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、独自の研究課題を設定する。そのうえで、地道かつ広範な史料調査を実施して、課題解決に向けての冷静かつ建設的に議論、批判しあえる力を身につける。</p> <p>卒業論文</p>					
		<p><b>&lt;外国語科目&gt;</b> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、A群（英語）とB群（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）に分かれている。A群とB群のそれぞれを習得しなければならないが、それぞれ複数の分野と種類に応じて多数のクラスを設けているので、その中から自由に選択することができる。</p> <p>英語、英会話、TOEIC、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語</p>	<p><b>地理学科</b></p> <p>系統地理学的に地理学全体を概観できるようにする。日本および世界における地誌地域の文化・特性を理解できるようにする。人文社会科学や自然科学の融合である地理学を環境を通してみることができるようになる。</p> <p>自然地理学、人文地理学、日本地誌、世界地誌、環境地理学</p> <p>上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。</p> <p>日本史、外国史、法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論</p>	<p>地理学の基礎的技法として、地図・空中写真・地理情報データの扱いを学ぶ。また、リモートセンシングやデータベースなど、より専門的な技法を取得し、地域に関する情報を自ら収集し、共有できるようにする。</p> <p>地理学実習、地図学、地理情報システム、マルチメディアシステム論、データベース論、測量学、測量学実習、地理情報システム技法、地域分析学、画像処理・リモートセンシング論、ネットワークプログラミング、情報通信システム論</p>	<p>幅広いニーズに合わせた多数の講義が開講されている。環境と防災分野、まちづくりとGIS分野、歴史と観光・交通分野の3分野について、意欲的に学ぶことにより、多面的な知識とそれらに応用する能力を養成する。</p> <p>都市地理学、農村地理学、歴史地理学、経済地理学、地域計画論、人口情報地理学、交通地理学、地理学特殊講義、世界遺産地理学特殊講義、地形学、気候学、水文学、生物地理学、災害地理学、生態学</p>	<p>2年次の小巡検、3年次の大巡検、野外研修は必修科目となっており、現地調査だけでなく、事前調査・事後研究の実践も重要視される。地域における調査を行うためには、自覚と責任を持って主体的に行動することが必要となる。</p> <p>地理学講義・調査法、地理学演習、外国研究</p>	<p>文献の検索や講義を通してレジュメ作成・プレゼンテーション法を学ぶ。専門的な調査方法を習得し、卒業論文作成に進む。質疑でコミュニケーション能力を磨き、自分の考えを適切な言葉や表現によって主張できるようにする。</p> <p>地理学講義・調査法、地理学演習、世界遺産地理学演習、地理学卒業論文、世界遺産地理学卒業論文</p>	<p>ゼミ教員から指導をうけ、的確な地図や図表を用いて地理学に関する卒業論文を作成する。卒業論文は、問題の所在の把握、段落や文章の構成、参考文献を理解した上でルールに沿ってまとめ、論理的な文章とする。</p> <p>卒業論文</p>				
		<p><b>&lt;健康・スポーツ科目&gt;</b> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。</p> <p>スポーツ実技、健康論</p>	<p><b>文化財学科</b></p> <p>考古学、美術史、史料学、保存科学など主要な専門分野を概観し、従来の研究成果にもとづき基礎的かつ必須の事項を学ぶ。文化財の種類・研究分野および文化財保護に関する必須事項を確認し、基礎的な調査研究法を修得する。</p> <p>考古学概論、美術史概論、史料学概論、保存科学概論、文化財学研究法</p> <p>上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。</p> <p>日本史、外国史、法学概論、政治学概論、社会学概論、経済学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論</p>	<p>考古学、美術史、史料学、保存科学および博物館学における先行研究として重要な論文および関係する歴史資料を読むことを通じて、専門用語を理解し、学術論文の構造、要点を理解する力や史料を読解する力を身につける。</p> <p>考古学講義、美術史講義、史料学講義、保存科学講義、文化財博物館学講義</p>	<p>考古学、美術史、保存科学の各分野に必要な文化財の調査法の実践や、そのための調査機器等の操作方法の修得、調査によって得られたデータの分析、データの整理・保存等の方法を修得する。</p> <p>考古学実習、美術史実習、保存科学実習</p>	<p>考古学、美術史、史料学、保存科学および文化財博物館学、世界遺産文化財学の専門的研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝え、他者と議論する力を身につける。</p> <p>考古学演習、美術史演習、史料学演習、保存科学演習、文化財博物館学演習、世界遺産文化財学演習</p>	<p>自らのテーマに関する研究史や先行研究を十分に踏まえた上で、自らの課題解決に向けて筋道を立て、計画性のある十分な調査研究を行い、その成果を整理して、担当教員との綿密な相談も経ながら卒業論文を作成する。</p> <p>卒業論文</p>					



<b>文化財歴史学科（通信教育課程）</b>	<b>&lt;主題科目&gt;</b> これからの時代を主体的に生きていくに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、まとまりを持って自分なりの『主題』を見つけて学んでもらうために、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を設定し、対応するコア科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。 人間論、国際関係論、法学概論、環境論	歴史学、文化財学における各分野（史料学・考古学・美術史・東洋史・西洋史）の学問領域を概観し、従来の研究成果にもとづいた基礎的かつ必須の事項を学び、研究動向の基礎を身につける。 史料学概論、考古学概論、美術史概論、東洋史概論、西洋史概論	先行研究として重要な論文・関係史料の講読を通して、専門用語（術語）を理解し、さまざまな史料に関する基礎的知識・扱い方・分析方法を修得する。さらに、学術論文の構造や要点を理解する力、史料を調査・分析できる力を身につける。 史学講読、文化財学講読	史学、文化財学、国文学、地理学の各分野における様々な研究視野にもとづく専門的知識を学び、最新の研究動向と研究手法を修得する。自らの研究の方向と課題を発見し、解決の力を身につけることで、研究の深化をめざす。 日本史特殊講義、考古学特殊講義、美術史特殊講義、西洋史特殊講義、東洋史特殊講義、言語伝承論、江戸文学論、歴史文学論、書誌学、平安文学論、観光論、シルクロード学、民俗学、仏教考古学、建築史	奈良の立地を生かした実地踏査で文化領域を総合的に捉える能力を養う。また、さまざまな史料の実物やレプリカに触れ、それを通して、実物史料の扱い方や、実物やレプリカだからこそ見える歴史の世界の分析手法を修得する。 奈良文化論、神伝承論、歴史地理学、古文書学、文化財修復学	自らの卒業論文のテーマを見つける。また、研究史を踏まえ、課題解決に向けて、口頭や文章による報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝える能力を養う。さらに討論を通して、他者と建設的に議論を行う力を身につける。 史学演習、文化財学演習	自らのテーマに関する先行研究の成果と課題をきちんと整理し、地道かつ広範な調査にもとづいて、課題解決に向けて筋道を立てる。さらに、適切な計画性のもと、主体的に研究成果をまとめる。 卒業論文	教養科目、専門科目を補完し、幅広い学問分野が学修できるよう編成した科目を開講している。 現代文学論、自然地理学、地理情報システム、人文地理学、気候学、心理学基礎、社会学基礎、経営学基礎、臨床心理学、情報処理、文化人類学
	<b>&lt;外国語科目&gt;</b> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、英語と中国語から自由に選択することができる。 英語、中国語							
	<b>&lt;健康・スポーツ科目&gt;</b> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。 スポーツ実技、健康論							

通信教育部では、テキスト科目（印刷教材等による授業）、およびスクーリング科目（面接授業）により学修を行う。  テキスト科目は、担当教員指定のテキスト、担当教員作成の学習指導書（サブテキスト）を基に、学生が自宅等で主体的かつ能動的に学修を行い、学修成果をレポート（報告課題）として提出し、担当教員が添削指導を行う。レポート合格者には科目修得試験受験資格を与える。科目修得試験は論述式で行い、当該科目の単位修得となる。  スクーリング科目では、学生は担当教員と対面による集中講義授業の受講により、各学問分野の学修を行う。テキスト科目では学修が困難である演習科目やすぐれた歴史的環境にふれる現地踏査により学生が主体的かつ能動的に学修を行う。	学修成果の評価方法は、次のとおりとする。  テキスト科目では、提出のあったレポート（報告課題）を担当教員が添削指導を行う。添削指導は、8つの評価項目（設題意図の把握度、テキストの内容理解度、論点の明確さ、論理の一貫性、着眼点、独創性、文章構成力、文字や表現の正確さ）により評価を行い、総合評価として合格又は再提出の判定を行う。レポート合格者には科目修得試験の受験資格を与える。科目修得試験は論述式で行い、当該科目の最終試験として評価を行う。  スクーリング科目では、当該科目の到達目標への達成度を、筆記試験、レポート提出、口頭発表、授業への参加態度のいずれか、あるいはそれらを総合して評価を行う。  卒業論文では、各自の研究テーマに基づき定めた卒業論文指導教員が、①卒業論文計画書、②卒業論文草稿、③面接指導と段階的に論文指導を行い、提出される卒業論文を当該課程での総合的な学修成果として、学位授与にふさわしいかどうかを評価する。
---	---

教育内容								学修方法	学修成果評価方法		
社会学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために教養教育、学科ごとの専門教育、自由選択科目、そしてキャリア教育について、各区分ごとに次の内容の授業を開講している。											
【教養科目】		【各学科専門科目】					【自由選択科目】			【キャリア教育科目】	
		<概論>	<専門に関する技法>	<講義>	<専門の実践的科目>	<演習>		<卒業論文>			
<b>社会学部</b>  <b>&lt;基礎科目&gt;</b> 基礎的な「学びの技法（スタディ・スキルズ）」や「発表・討論の技法」を身につけることを目的としている。また、モバイルデバイスを含めた情報機器を用いた技術のみならず、高度情報化社会における諸問題に対応するための科目も含まれている。  情報基礎・倫理、表現技法  <b>&lt;主題科目&gt;</b> これからの時代を主体的に生きていくのに必要な、基本的な諸問題を取り扱う。数多くの主題科目の中から、まとまりを持って自分なりの『主題』を見つけて学んでもらうために、「人間」「国際関係」「環境」という3つの分野を設定し、対応するコア科目群を配置している。各コア科目群は、互いに関連しつつも異なる視点や発想法による科目群で構成されている。  人間論、国際関係論、環境論  <b>&lt;外国語科目&gt;</b> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、A群（英語）とB群（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）に分かれている。A群とB群のそれぞれを習得しなければならないが、それぞれ複数の分野と種類に応じて多数のクラスを設けているので、その中から自由に選択することができる。  英語、英会話、TOEIC、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語  <b>&lt;健康・スポーツ科目&gt;</b> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。  スポーツ実技、健康論	<b>心理学</b>  心理学の考え方や基礎的な理論を修得するために、1年次に心理学全般の概論科目や、特に注力している臨床心理学と社会心理学の概論科目を配当し、より専門性の高い科目を履修する基礎となる多様な概念や考え方の習得をめざす。  心理学概論、臨床心理学概論、社会心理学概論  <b>総合社会学科</b>  特定の領域に偏ることなく、現代社会の理解に欠かせない諸領域について広く横断的に講義を中心とした必修科目を履修することにより、より専門的な学修の可能性を広げ、総合的な知識の基礎とする。  社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学  上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。  法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	心理学の働きや行動、他者との関係を検討するための測定法や介入法を学ぶ方法論科目や、データを解析する統計的方法論科目を配置する。また、成果を報告し、他者と共有するための技術を、実習科目を通じて実践的に学ぶ。	人間の心の働きや行動、他者との関係を検討するための測定法や介入法を学ぶ方法論科目や、データを解析する統計的方法論科目を配置する。また、成果を報告し、他者と共有するための技術を、実習科目を通じて実践的に学ぶ。	臨床心理学と社会心理学を中心に、広く心理学の諸領域にわたる講義科目を配置する。それらを履修することで、心の問題の発見とケア、組織や社会における特有の人間行動など、多様な問題を有機的につなげる力を身につける。	心理学研究で用いる多様な方法論の実習科目を配置する。対象者との関係構築の技法や研究課題の設定、検証の手順の策定、成果の報告方法について体系的・実践的に学修し、問題を自らの課題として捉え、考察する能力を育成する。	4学期にわたる段階的な学びにより、心理学における知識、技法、思考法、表現法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。また、対人関係や社会における問題を心理学的に捉えて研究課題を構築する能力を育成する。	大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえた上で、自らの関心にもとづいて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。	教養科目と学科専門科目以外にも個性的で主体的な学修ができるように、自学科以外の他学科の科目や文学部の科目も履修できるようにしている。  さらに、「全学自由科目」を設けることで、ジャンルにとられない幅広い分野の学修ができるようにしている。  数理の世界、統計学入門、生命科学、生物の多様性、宇宙・物質・エネルギー、自然史、科学技術史、思想史、社会経済史、現代史、現代芸術論、観光論、GIS基礎実習、GIS基礎講座、芸能史、書誌学、比較民族学、民俗学、映像文化論、コンピュータ概論、プログラミング初級、データ処理論、コンピュータグラフィックス、コミュニケーション論、情報と職業、情報ネットワーク論、人文地理学概論、自然地理学概論、地誌学概論、パソコン操作、日本国憲法、ジェンダー論、差別・人権問題論、奈良文化論、シルクロード学、世界遺産学概論、海外研修、入門スペイン語、キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	学生が分野にとられず学べる「全学自由科目」の一部として、学生が卒業後の将来を考慮し、進路実現に向けた準備を行うためのキャリア支援科目を設けている。  キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、キャリアのための人間関係論	左記の教育内容について、科目の内容や目的に応じて、次の各種の形式の授業、あるいは複数の形式を組み合わせた授業を通して、学生が左記の教育内容を主体的かつ能動的に学修できるようにする。  講義形式・・・各分野の概念や特徴等の知識を、教員の説明や解説や質疑応答により修得する。 講読形式・・・外国語や専門分野の文献や資料について正確に内容を理解し、把握して論理的展開や語学力、先行研究を把握する。 演習形式・・・専門分野における自分および他者の調査研究について建設的に意見を交換していくことを通じて専門分野を総合的に把握する。 実技・実験・実習・フィールドワーク形式・・・実際の作業や観察、海外を含む教室外での諸活動を通じて、技法や技能を体得し、体験や経験を身につける。	学修成果は、次のとおり評価する。  個々の科目について 講義形式・・・科目の概念や特性についての知識の修得や理解の状況を、口頭発表やテスト形式、レポート形式のいずれかの内容、あるいはそれらを総合的に組み合わせで評価する。 講読形式・・・外国語や専門分野の文献や資料について正確に内容を理解し、把握して論理的展開や語学力、先行研究を把握する。 演習形式・・・自分の研究や調査の成果についての他者への説明と、他者の研究や調査に対する自らの意見発表が、わかりやすく論理的かつ冷静に他者に敬意を払いながら口頭形式・・・実際の作業や観察、海外を含む教室外での諸活動を通じて、技法や技能を体得し、体験や経験を身につける。
		人間論、国際関係論、環境論  <b>&lt;外国語科目&gt;</b> 外国語の習得は、国際化時代に適応し、学問を深めるための基礎となる。外国語科目は、A群（英語）とB群（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）に分かれている。A群とB群のそれぞれを習得しなければならないが、それぞれ複数の分野と種類に応じて多数のクラスを設けているので、その中から自由に選択することができる。  英語、英会話、TOEIC、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語  <b>&lt;健康・スポーツ科目&gt;</b> 実技科目の「スポーツ実技」、講義科目の「健康論」で構成されている。「スポーツ実技」は身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続化する力を養うことをめざしている。「健康論」は、健康について生理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握、改善する力を身につけることを目的としている。  スポーツ実技、健康論	社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学  上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。  法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学  上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。  法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	社会学基礎、文化人類学、経済学、情報学  上記の科目を学ぶにあたり、人文科学や社会科学の基礎的な内容をあわせて学ぶことで、上記の科目の一層の理解を目指す。  法学概論、政治学概論、哲学概論、倫理学概論、宗教学概論	地域社会学、家族社会学、産業社会学、国際社会学、環境社会学、情報社会学、東アジア・東南アジア社会学、南アジア・西アジア社会学、経営学、消費者行動分析、企業行動分析、消費と経済、経営管理論、情報工学、産業と技術の発展、世界の民族誌、民事法概説、行政法概説、国際政治学概説、ジェンダーとライフコース、企業倫理と消費者、生と死の哲学、応用倫理学概説、現代社会と宗教、心理学概説、身体と文化の継承、メディアとポピュラーカルチャー、情報基礎理論、プログラミン言語、デジタルアーカイブ概論、文化情報論、販売管理論、知的財産管理論、資産管理計画論、総合社会学特殊講義、世界遺産社会学特殊講義	1年次および2年次で学んだことを総合的に自らの研究として結実させるための具体的な方法を身につけると共に、他者の意見を尊重しながら自らの主張を適切に表現し、議論することの重要性を学ぶ。卒業論文を執筆するための中心的な場となる。	演習、世界遺産社会学演習	社会に対して知的に貢献することをめざし、先行研究における知の蓄積を十分に踏まえた上で自らの研究目標と、具体的かつ実践的な研究課題を設定し、適切な計画性のもと、主体的に研究論文を完成させる。	卒業論文	4年間の学修全般について 奈良大学では卒業論文を4年間の学びの集大成として位置づけている。卒業論文の内容により4年間の学びが体系的に身につけているか、学位授与にふさわしいかどうかを総合的に評価する。